

平成 28 年 4 月 15 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりロタウイルス及びノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生が 3 件ありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 滝沢市内の保育所

(1) 施設の概要

滝沢市内の保育所（園児数 45 名、職員数 20 名）

(2) 有症者の状況等

- ア 4 月 12 日（火）、当該施設から県央保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- イ 同日から県央保健所が調査を開始し、3 月 28 日（月）から 4 月 13 日（水）にかけて、22 名（園児 21 名、職員 1 名）に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- ウ 入院者 1 名は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】 ※入院者再掲（ ）

区分	0 歳児 クラス	1 歳児 クラス	2 歳児 クラス	3 歳児 クラス	4 歳児 クラス	5 歳児 クラス	職員 (20 代)	合計
男	0	1	3	3	2	2(1)	0	11
女	1	5	1	1	0	2	1	11
計	1	6	4	4	2	4(1)	1	22

(単位：人)

(3) 原因究明の調査等

- ア 県環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者 4 名からロタウイルスを検出。
- イ 県央保健所が実施した疫学調査等から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- ウ 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

2 滝沢市内の保育所

(1) 施設の概要

滝沢市内の保育所（園児数 14 名、職員数 4 名）

(2) 有症者の状況等

- ア 4 月 13 日（水）、当該施設から県央保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から県央保健所が調査を開始し、4月4日(月)から4月14日(木)にかけて、12名(園児11名、職員1名)に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	0歳児 クラス	1歳児 クラス	2歳児 クラス	3歳児 クラス	4歳児 クラス	5歳児 クラス	職員 (20代)	合計
男	0	0	1	2	2	0	0	5
女	0	1	2	1	1	1	1	7
計	0	1	3	3	3	1	1	12

(単位：人)

(3) 原因究明の調査等

ア 県環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者2名からノロウイルスを検出。

イ 県央保健所が実施した疫学調査等から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

3 滝沢市内の小学校

(1) 施設の概要

滝沢市内の小学校(児童数14名、職員数7名)

(2) 有症者の状況等

ア 4月13日(水)、滝沢市教育委員会から県央保健所に、複数の児童が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から県央保健所が調査を開始し、4月6日(水)から4月13日(水)にかけて、10名(児童9名、職員1名)に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢(学年)別構成】

区分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	職員 (50代)	合計
男	1	3	1	1	0	0	0	6
女	1	0	1	0	0	1	1	4
計	2	3	2	1	0	1	1	10

(単位：人)

(3) 原因究明の調査等

ア 県環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者3名からノロウイルスを検出。

イ 県央保健所が実施した疫学調査等から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合 計
平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 4 月 15 日 (平成 28 年度累計)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	6 (6)
平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 4 月 15 日 (平成 27 年度累計)	2 (46)	0 (0)	0 (10)	2 (56)
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 4 月 15 日 (平成 26 年度累計)	3 (48)	1 (3)	0 (6)	4 (57)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

【担当 感染症担当 小野・東 内 5472】

平成 28 年 4 月 18 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

葛巻町内の老人福祉施設（利用者数 56 名、職員数 48 名）

2 有症者の状況等

- （1） 4 月 15 日（金）、当該施設から県央保健所に、複数の利用者が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- （2） 同日から県央保健所が調査を開始し、4 月 9 日（土）から 4 月 16 日（土）にかけて、26 名（利用者 18 名、職員 8 名）に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- （3） 入院者 3 名、有症者は回復傾向。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	利用者					職員				計
	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代	90 歳代	10 歳代	20 歳代	30 歳代	50 歳代	
男	1	0	0	2(1)	2	1	1	1	0	8(1)
女	0	2(1)	2	6	3(1)	0	4	0	1	18(2)
計	1	2(1)	2	8(1)	5(1)	1	5	1	1	26(3)

（ ）内は入院者再掲 （単位：人）

3 原因究明の調査等

- （1） 県環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者 5 名からノロウイルスを検出。
- （2） 県央保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- （3） 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【担当 感染症担当 小野・東 内 5472】

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（盛岡市分を含む）

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合 計
平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 4 月 18 日 (平成 28 年度累計)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	7 (7)
平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 4 月 18 日 (平成 27 年度累計)	3 (46)	0 (0)	0 (10)	3 (56)
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 4 月 18 日 (平成 26 年度累計)	5 (48)	1 (3)	0 (6)	6 (57)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は85℃以上・1分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 28 年 4 月 20 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生が2件ありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 葛巻町内の医療機関

(1) 施設の概要

葛巻町内の医療機関（入院患者数 49 名、職員数 88 名）

(2) 有症者の状況等

- ア 4月18日（月）、当該施設から県央保健所に、複数の入院患者が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- イ 同日から県央保健所が調査を開始し、4月14日（木）から4月18日（月）にかけて、17名（入院患者16名、職員1名）に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	職員 (50歳代)	合計
男	0	0	4	1	0	5
女	1	3	4	3	1	12
計	1	3	8	4	1	17

(単位：人)

(3) 原因究明の調査等

- ア 県環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者4名からノロウイルスを検出。
- イ 県央保健所が実施した疫学調査等から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- ウ 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

2 八幡平市の保育所

(1) 施設の概要

八幡平市の保育所（園児数 50 名、職員数 13 名）

(2) 有症者の状況等

- ア 4月18日（月）、当該施設から県央保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- イ 同日から県央保健所が調査を開始し、4月11日（月）から4月18日（月）にかけて、

16名（園児13名、職員3名）に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
 ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	0歳児 クラス	1歳児 クラス	2歳児 クラス	3歳児 クラス	4歳児 クラス	5歳児 クラス	職員 (20代)	職員 (40代)	合計
男	2	1	1	1	3	1	0	0	9
女	0	0	1	1	1	1	1	2	7
計	2	1	2	2	4	2	1	2	16

(単位：人)

(3) 原因究明の調査等

- ア 県環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者4名からノロウイルスを検出。
- イ 県央保健所が実施した疫学調査等から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- ウ 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況 (岩手県内、盛岡市分を含む)

区分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合計
平成28年4月1日～ 平成28年4月20日 (平成28年度累計)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	9 (9)
平成27年4月1日～ 平成27年4月20日 (平成27年度累計)	4 (46)	0 (0)	0 (10)	4 (56)
平成26年4月1日～ 平成26年4月20日 (平成26年度累計)	5 (48)	1 (3)	0 (6)	6 (57)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は85℃以上・1分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 28 年 5 月 19 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

紫波町内の老人福祉施設（利用者数 91 名、職員数 58 名）

2 有症者の状況等

- (1) 5 月 17 日（火）、当該施設から県央保健所に、複数の利用者が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から県央保健所が調査を開始し、5 月 14 日（土）から 5 月 18 日（水）にかけて、34 名（入所者 30 名、職員 4 名）に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- (3) 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	利用者				職員		計
	60 歳代	70 歳代	80 歳代	90 歳代	30 歳代	40 歳代	
男	1	0	4	0	1	0	6
女	0	2	12	11	2	1	28
計	1	2	16	11	3	1	34

(単位：人)

3 原因究明の調査等

- (1) 県環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者 7 名からノロウイルスを検出。
- (2) 県央保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【担当 感染症担当 小野・東 内 5472】

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（盛岡市分を含む）

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合 計
平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 5 月 19 日 (平成 28 年度累計)	8 (8)	4 (4)	1 (1)	13 (13)
平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 5 月 19 日 (平成 27 年度累計)	5 (46)	0 (0)	1 (10)	6 (56)
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 5 月 19 日 (平成 26 年度累計)	11 (48)	1 (3)	0 (6)	12 (57)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は85℃以上・1分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 28 年 6 月 13 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

滝沢市内の老人福祉施設（利用者数 146 名、職員数 73 名）

2 有症者の状況等

- (1) 6 月 7 日（火）、当該施設から県央保健所に、複数の利用者が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から県央保健所が調査を開始し、6 月 4 日（土）から 6 月 10 日（金）にかけて、34 名（入所者 23 名、職員 11 名）に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- (3) 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	利用者			職員				計
	70 歳代	80 歳代	90 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	60 歳代	
男	1	4	0	1	2	0	0	8
女	2	8	8	2	2	3	1	26
計	3	12	8	3	4	3	1	34

(単位：人)

3 原因究明の調査等

- (1) 県環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者 7 名からノロウイルスを検出。
- (2) 県央保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【担当 感染症担当 小野・東 内 5472】

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（盛岡市分を含む）

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合 計
平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 6 月 13 日 (平成 28 年度累計)	13 (13)	4 (4)	1 (1)	18 (18)
平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 6 月 13 日 (平成 27 年度累計)	8 (46)	0 (0)	3 (10)	11 (56)
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 6 月 13 日 (平成 26 年度累計)	14 (48)	2 (3)	0 (6)	16 (57)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 28 年 6 月 16 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

滝沢市内の保育所（利用者数 126 名、職員数 39 名）

2 有症者の状況等

- （1） 6 月 13 日（月）、当該施設から県央保健所に、複数の利用者が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- （2） 同日から県央保健所が調査を開始し、6 月 5 日（日）から 6 月 14 日（火）にかけて、21 名（園児 20 名、職員 1 名）に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- （3） 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	園児						職員	計
	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	20 歳代	
男	2	4	3	0	0	2	0	11
女	1	0	3	1	3	1	1	10
計	3	4	6	1	3	3	1	21

（単位：人）

3 原因究明の調査等

- （1） 県環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者 4 名からノロウイルスを検出。
- （2） 県央保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- （3） 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【担当 感染症担当 小野・東 内 5472】

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（盛岡市分を含む）

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合 計
平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 6 月 16 日 (平成 28 年度累計)	15 (15)	4 (4)	1 (1)	20 (20)
平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 6 月 16 日 (平成 27 年度累計)	9 (46)	0 (0)	3 (10)	12 (56)
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 6 月 16 日 (平成 26 年度累計)	14 (48)	2 (3)	0 (6)	16 (57)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は85℃以上・1分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 施設の概要

北上市内の保育所（利用者数 46 名、職員数 15 名）

2 有症者の状況等

- (1) 10 月 31 日（月）、当該施設から中部保健所に、複数の利用者が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から中部保健所が調査を開始し、10 月 11 日から 11 月 2 日にかけて、19 名（園児 17 名、職員 2 名）に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- (3) 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

（単位：人）

区分	園児			職員		計
	0 歳児	1 歳児	2 歳児	30 歳代	40 歳代	
男	0	4	2	0	0	6
女	5	3	3	1	1	13
計	5	7	5	1	1	19

3 原因究明の調査等

- (1) 県環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者 8 名からノロウイルスを検出。
- (2) 中部保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 中部保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

4 感染性胃腸炎の集団発生の状況

（盛岡市分を含む、（ ）内は年度累計、単位：件）

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サボウイルス等)	合計
平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 11 月 4 日	19	4	4	27
平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 11 月 4 日	11 (46)	0 (0)	5 (10)	16 (56)
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 11 月 4 日	18 (48)	2 (3)	1 (6)	21 (57)

5 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 施設の概要

北上市内の保育所（園児 108 名、職員数 23 名）

2 有症者の状況等

- (1) 11 月 14 日（月）、当該施設から中部保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から中部保健所が調査を開始し、11 月 4 日から 11 月 14 日にかけて、園児 11 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- (3) 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

（単位：人）

区分	園児						計
	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	
男	0	0	0	0	5	0	5
女	0	0	0	0	4	2	6
計	0	0	0	0	9	2	11

3 原因究明の調査等

- (1) 県環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者 3 名からノロウイルスを検出。
- (2) 中部保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 中部保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

4 感染性胃腸炎の集団発生の状況

（盛岡市分を含む、（ ）内は年度累計、単位：件）

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サボウイルス等)	合計
平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 11 月 17 日	21	4	4	29
平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 11 月 17 日	12 (46)	0 (0)	5 (10)	17 (56)
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 11 月 17 日	18 (48)	2 (3)	1 (6)	21 (57)

5 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 施設の概要

北上市内の保育所（園児 112 名、職員数 28 名）

2 有症者の状況等

- (1) 11 月 28 日（月）、当該施設から中部保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から中部保健所が調査を開始し、11 月 22 日から 11 月 28 日にかけて、園児 17 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- (3) 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

（単位：人）

区分	園児							計
	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	6 歳児	
男	0	0	2	3	0	0	2	7
女	0	0	2	3	4	1	0	10
計	0	0	4	6	4	1	2	17

3 原因究明の調査等

- (1) 県環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者 3 名からノロウイルスを検出。
- (2) 中部保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 中部保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

4 感染性胃腸炎の集団発生の状況

（盛岡市分を含む、（ ）内は年度累計、単位：件）

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	その他 (サボウイルス等)	合計
平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 12 月 1 日	23	4	5	32
平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 12 月 1 日	16 (46)	0 (0)	5 (10)	21 (56)
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 12 月 1 日	19 (48)	2 (3)	2 (6)	23 (57)

5 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 施設の概要

一戸町内の保育所（園児 102 名、職員数 28 名）

2 有症者の状況等

- (1) 11 月 30 日（水）、当該施設から二戸保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から二戸保健所が調査を開始し、11 月 29 日から 12 月 2 日にかけて、園児及び職員 19 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- (3) 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	園児					職員			計
	0 歳児	1 歳児	2 歳児	4 歳児	6 歳児	20 歳代	30 歳代	40 歳代	
男	1	2	1	1	1	0	0	0	6
女	1	6	1	2	0	1	1	1	13
計	2	8	2	3	1	1	1	1	19

3 原因究明の調査等

- (1) 県環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者 3 名からノロウイルスを検出。
- (2) 二戸保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 二戸保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

4 感染性胃腸炎の集団発生の状況

(盛岡市分を含む、()内は年度累計、単位：件)

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サボウイルス等)	合計
平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 12 月 2 日	24	4	5	33
平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 12 月 2 日	16 (46)	0 (0)	5 (10)	21 (56)
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 12 月 2 日	19 (48)	2 (3)	2 (6)	23 (57)

5 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 施設の概要

一戸町内の保育所（園児 76 名、職員数 17 名）

2 有症者の状況等

- (1) 12 月 9 日（金）、当該施設から二戸保健所に、複数の園児が、下痢・嘔吐等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から二戸保健所が調査を開始し、12 月 2 日から 12 月 11 日にかけて、園児 19 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- (3) 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

（単位：人）

区分	園児						計
	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	6 歳児	
男	3	5	2	1	1	0	12
女	2	1	1	1	1	1	7
計	5	6	3	2	2	1	19

3 原因究明の調査等

- (1) 医療機関で実施した検査の結果、有症者 8 名からノロウイルスを検出。
- (2) 二戸保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 二戸保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

4 感染性胃腸炎の集団発生の状況

（盛岡市分を含む、（ ）内は年度累計、単位：件）

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サボウイルス等)	合計
平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 12 月 2 日	26	4	5	35
平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 12 月 2 日	16 (46)	0 (0)	5 (10)	21 (56)
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 12 月 2 日	19 (48)	2 (3)	2 (6)	23 (57)

5 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 施設の概要

八幡平市内の保育所（園児 95 名、職員数 18 名）

2 有症者の状況等

- (1) 12 月 9 日（金）、当該施設から県央保健所に、複数の園児が、下痢・嘔吐等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から県央保健所が調査を開始し、12 月 3 日から 12 月 9 日にかけて、園児 11 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- (3) 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

（単位：人）

区分	園児						計
	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	
男	0	0	1	1	1	3	6
女	1	2	0	1	0	1	5
計	1	2	1	2	1	4	11

3 原因究明の調査等

- (1) 医療機関で実施した検査の結果、有症者 8 名からノロウイルスを検出。
- (2) 県央保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

4 感染性胃腸炎の集団発生の状況

（盛岡市分を含む、（ ）内は年度累計、単位：件）

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サボウイルス等)	合計
平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 12 月 13 日	27	4	5	36
平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 12 月 13 日	20 (46)	0 (0)	6 (10)	26 (56)
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 12 月 13 日	19 (48)	2 (3)	2 (6)	23 (57)

5 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 28 年 12 月 15 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 一関市内の保育所

(1) 施設の概要

園児 87 名、職員数 29 名

(2) 有症者の状況等

ア 12 月 12 日（月）、当該施設から一関保健所に、複数の園児が、下痢・嘔吐等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から一関保健所が調査を開始し、11 月 27 日から 12 月 14 日にかけて、園児 23 名、職員 5 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	園児						職員			計
	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	20 歳代	40 歳代	50 歳代	
男	2	2	2	3	1	1	2	0	0	13
女	1	3	3	1	3	1	0	1	2	15
計	3	5	5	4	4	2	2	1	2	28

(3) 原因究明の調査等

ア 医療機関で実施した検査の結果、有症者 3 名、無症状者 1 名からノロウイルスを検出。

イ 一関保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 一関保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

2 平泉町内の保育所

(1) 施設の概要

園児 81 名、職員数 27 名

(2) 有症者の状況等

ア 12 月 12 日（月）、当該施設から一関保健所に、複数の園児が、下痢・嘔吐等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から一関保健所が調査を開始し、12 月 1 日から 12 月 14 日にかけて、園児 34 名、職員 2 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	園児					職員		計
	0・1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	20 歳代	50 歳代	
男	3	4 (1)	4 (1)	5	4	0	0	20
女	2	3	2	5	2	1	1	16
計	5	7	6	10	6	1	1	36

() 内は、入院者再掲

(2) 原因究明の調査等

- ア 医療機関で実施した検査の結果、有症者5、無症者1名からノロウイルスを検出。
- イ 一関保健所が実施した疫学調査から施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- ウ 一関保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

3 感染性胃腸炎の集団発生の状況 (盛岡市分を含む、()内は年度累計、単位：件)

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	その他 (サポウイルス 等)	合計
平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 12 月 15 日	30	4	6	40
平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 12 月 15 日	20 (46)	0 (0)	6 (10)	26 (56)
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 12 月 15 日	19 (48)	2 (3)	3 (6)	24 (57)

4 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 施設の概要

北上市内の保育所（園児 109 名、職員数 32 名）

2 有症者の状況等

- (1) 12 月 15 日（木）、当該施設から中部保健所に、複数の園児が、下痢・嘔吐等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から中部保健所が調査を開始し、12 月 11 日から 12 月 19 日にかけて、園児 36 名、職員 4 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- (3) 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	園児						職員	計
	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	6 歳児	20 歳代	
男	5	2	8	1	0	1	0	17
女	10	2	0	3	2	2	4	23
計	15	4	8	4	2	3	4	40

3 原因究明の調査等

- (1) 医療機関で実施した検査の結果、有症者 4 名からノロウイルスを検出。
- (2) 中部保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 中部保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

4 感染性胃腸炎の集団発生の状況

(盛岡市分を含む、()内は年度累計、単位：件)

区分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サボウイルス等)	合計
平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 12 月 19 日	31	4	7	42
平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 12 月 19 日	24 (46)	0 (0)	7 (10)	31 (56)
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 12 月 19 日	20 (48)	2 (3)	3 (6)	25 (57)

5 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 28 年 12 月 20 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 八幡平市内の保育所

(1) 施設の概要 園児 95 名、職員数 15 名

(2) 有症者の状況等

ア 12 月 16 日（金）、当該施設から県央保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から県央保健所が調査を開始し、12 月 10 日から 12 月 19 日にかけて、園児 26 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】 (単位：人)

区分	園児						計
	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	
男	0	1	1	6	1	0	9
女	0	1	1	8	5	2	17
計	0	2	2	14	6	2	26

(3) 原因究明の調査等

ア 県環境保健研究センターで実施した検査の結果、有症者 4 名からノロウイルスを検出。

イ 県央保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

2 奥州市内の保育所

(1) 施設の概要 園児 51 名、職員数 17 名

(2) 有症者の状況等

ア 12 月 16 日（金）、当該施設から奥州保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から奥州保健所が調査を開始し、12 月 11 日から 12 月 19 日にかけて、園児 16 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】 (単位：人)

区分	園児				計
	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3～5 歳児	
男	1	3	0	0	4
女	1	8	2	1	12
計	2	11	2	1	16

(3) 原因究明の調査等

- ア 県環境保健研究センターで実施した検査の結果、有症者5名からノロウイルスを検出。
- イ 奥州保健所が実施した疫学調査から施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- ウ 奥州保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

3 一関市内の保育所

- (1) 施設の概要 園児62名、職員数13名
- (2) 有症者の状況等

- ア 12月14日(水)、当該施設から一関保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- イ 同日から一関保健所が調査を開始し、12月8日から12月20日にかけて、園児30名、職員9名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】 (単位：人)

区分	園児						職員				計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	20歳代	30歳代	50歳代	60歳代	
男	1	4	4	1	6	2	0	0	0	0	18
女	1	0	2	4	3	2	2	1	4	2	21
計	2	4	6	5	9	4	2	1	4	2	39

(3) 原因究明の調査等

- ア 県環境保健研究センターで実施した検査の結果、有症者7名からノロウイルスを検出。
- イ 一関保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- ウ 一関保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

4 感染性胃腸炎の集団発生の状況 (盛岡市分を含む、()内は年度累計、単位：件)

区分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合計
平成28年4月1日～ 平成28年12月20日	35	4	7	46
平成27年4月1日～ 平成27年12月20日	24 (46)	0 (0)	7 (10)	31 (56)
平成26年4月1日～ 平成26年12月20日	20 (48)	2 (3)	3 (6)	25 (57)

5 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は85℃以上・1分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 28 年 12 月 22 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 滝沢市内の保育所

(1) 施設の概要

園児 120 名、職員数 45 名

(2) 有症者の状況等

ア 12 月 20 日（火）、当該施設から県央保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から県央保健所が調査を開始し、12 月 4 日から 12 月 21 日にかけて、57 名（園児 47 名、職員 10 名）に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

（単位：人）

区分	園児						職員					計
	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	
男	3	5	3	4	4	6	0	0	0	0	0	25
女	6	5	3	2	1	5	3	4	1	1	1	32
計	9	10	6	6	5	11	3	4	1	1	1	57

(3) 原因究明の調査等

ア 環境保健研究センターで実施した検査の結果、有症者 7 名からノロウイルスを検出。

イ 県央保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

2 一関市内の保育所

(1) 施設の概要

園児 154 名、職員数 33 名

(2) 有症者の状況等

ア 12 月 19 日（月）、当該施設から一関保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から一関保健所が調査を開始し、12 月 4 日から 12 月 20 日にかけて、53 名（園児 50 名、職員 3 名）に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	園児						職員		計
	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	30 歳代	50 歳代	
男	1	0	3	8(1)	8	6	0	0	26
女	2	1	2	3	4	12	2	1	27
計	3	1	5	11(1)	12	18	2	1	53

() 内は、入院者再掲

(2) 原因究明の調査等

- ア 環境保健研究センターで実施した検査の結果、有症者4名からノロウイルスを検出。
- イ 一関保健所が実施した疫学調査から施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- ウ 一関保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

3 感染性胃腸炎の集団発生の状況 (盛岡市分を含む、()内は年度累計、単位：件)

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	その他 (サポウイルス 等)	合計
平成28年4月1日～ 平成28年12月22日	37	4	7	48
平成27年4月1日～ 平成27年12月22日	25 (46)	0 (0)	8 (10)	33 (56)
平成26年4月1日～ 平成26年12月22日	20 (48)	2 (3)	3 (6)	25 (57)

4 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は85℃以上・1分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 28 年 12 月 27 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルス及びサポウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生が 6 件ありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 雫石町内の保育所

(1) 施設の概要 園児 61 名、職員数 12 名

(2) 有症者の状況等

ア 12 月 20 日（火）、当該施設から県央保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から県央保健所が調査を開始し、12 月 19 日から 12 月 24 日にかけて、園児 19 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	園児						計
	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	
男	0	1	1	1	1	1	5
女	2	4	2	2	1	3	14
計	2	5	3	3	2	4	19

(3) 原因究明の調査等

ア 県環境保健研究センターで実施した検査の結果、有症者等 8 名からノロウイルスを検出。

イ 県央保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

2 北上市内の保育所

(1) 施設の概要 園児 142 名、職員数 36 名

(2) 有症者の状況等

ア 12 月 21 日（水）、当該施設から中部保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から中部保健所が調査を開始し、12 月 15 日から 12 月 25 日にかけて、園児 24 名、職員 2 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	園児						職員	計
	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	40 歳代	
男	0	1	10	1	3	1	0	16
女	1	2	5	0	0	0	2	10
計	1	3	15	1	3	1	2	26

(3) 原因究明の調査等

- ア 県環境保健研究センターで実施した検査の結果、有症者3名からノロウイルスを検出。
- イ 中部保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- ウ 中部保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

3 遠野市内の保育所

(1) 施設の概要 園児 36 名、職員数 10 名

(2) 有症者の状況等

- ア 12月22日(木)、当該施設から中部保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- イ 同日から中部保健所が調査を開始し、12月19日から12月24日にかけて、園児18名、職員3名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】 (単位：人)

区分	園児						職員		計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	20歳代	40歳代	
男	1	2	4	2	2	4	0	0	15
女	0	1	1	1	0	0	2	1	6
計	1	3	5	3	2	4	2	1	21

(3) 原因究明の調査等

- ア 県環境保健研究センターで実施した検査の結果、有症者7名からノロウイルスを検出。
- イ 中部保健所が実施した疫学調査から施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- ウ 中部保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

4 北上市内の保育所

(1) 施設の概要 園児 57 名、職員数 18 名

(2) 有症者の状況等

- ア 12月22日(木)、当該施設から中部保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- イ 同日から中部保健所が調査を開始し、12月20日から12月24日にかけて、園児14名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】 (単位：人)

区分	園児						計
	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	
男	1	0	2	0	2	3	8
女	0	1	1	0	2	2	6
計	1	1	3	0	4	5	14

(3) 原因究明の調査等

- ア 県環境保健研究センターで実施した検査の結果、有症者2名からノロウイルスを検出。
- イ 中部保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- ウ 中部保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

5 北上市内の保育所

(1) 施設の概要 園児 65 名、職員数 15 名

(2) 有症者の状況等

ア 12月22日(木)、当該施設から中部保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から中部保健所が調査を開始し、12月7日から12月22日にかけて、園児15名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】 (単位：人)

区分	園児						計
	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	
男	3	0	3	2	2	1	11
女	1	2	0	0	1	0	4
計	4	2	3	2	3	1	15

(3) 原因究明の調査等

- ア 県環境保健研究センターで実施した検査の結果、有症者2名からサポウイルスを検出。
- イ 中部保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- ウ 中部保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

6 大船渡市内の保育所

(1) 施設の概要 園児 67 名、職員数 14 名

(2) 有症者の状況等

ア 12月21日(水)、当該施設から大船渡保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から大船渡保健所が調査を開始し、12月5日から12月22日にかけて、園児26名、職員5名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】 (単位：人)

区分	園児						職員			計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	20歳代	30歳代	60歳代	
男	0	3	3	0	4	6	0	0	0	16
女	2	1	0	0	0	7	3	1	1	15
計	2	4	3	0	4	13	3	1	1	31

(3) 原因究明の調査等

- ア 県環境保健研究センターで実施した検査の結果、有症者4名からノロウイルスを検出。
イ 大船渡保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
ウ 大船渡保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

7 感染性胃腸炎の集団発生の状況 (盛岡市分を含む、()内は年度累計、単位：件)

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	その他 (サポウイルス等)	合計
平成28年4月1日～ 平成28年12月27日	42	4	9	55
平成27年4月1日～ 平成27年12月27日	25 (46)	0 (0)	8 (10)	33 (56)
平成26年4月1日～ 平成26年12月27日	22 (48)	2 (3)	3 (6)	27 (57)

8 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- | |
|---|
| <p>① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。</p> <p>② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は85℃以上・1分間以上で十分に加熱する。</p> <p>③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。</p> <p>④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。</p> |
|---|

【担当 感染症担当 小野・東 内線5472】

平成 28 年 12 月 28 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 遠野市内の保育所

(1) 施設の概要

園児 73 名、職員数 17 名

(2) 有症者の状況等

ア 12 月 24 日（土）、当該施設から中部保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から中部保健所が調査を開始し、12 月 19 日から 12 月 27 日にかけて、園児 29 名、職員 1 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	園児							職員	計
	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	6 歳児	20 歳代	
男	0	0	1	1	6	5	2	0	15
女	0	0	0	1	4	7	2	1	15
計	0	0	1	2	10	12	4	1	30

(3) 原因究明の調査等

ア 県環境保健研究センターで実施した検査の結果、有症者 2 名からノロウイルスを検出。

イ 中部保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 中部保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

2 奥州市内の保育所

(1) 施設の概要

園児 104 名、職員数 24 名

(2) 有症者の状況等

ア 12 月 21 日（水）、当該施設から奥州保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から奥州保健所が調査を開始し、12 月 18 日から 12 月 27 日にかけて、園児 24 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【担当 感染症担当 小野・東 内 5472】

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	園児						計
	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	
男	1	3	2	2	2	2	12
女	2	3	4	1	1	1	12
計	3	6	6	3	3	3	24

(3) 原因究明の調査等

- ア 県環境保健研究センターで実施した検査の結果、有症者5名からノロウイルスを検出。
 イ 奥州保健所が実施した疫学調査から施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
 ウ 奥州保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

3 感染性胃腸炎の集団発生の状況

(盛岡市分を含む、()内は年度累計、単位：件)

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	その他 (サボウイルス等)	合計
平成28年4月1日～ 平成28年12月28日	44	4	9	57
平成27年4月1日～ 平成27年12月28日	25 (46)	0 (0)	8 (10)	33 (56)
平成26年4月1日～ 平成26年12月28日	22 (48)	2 (3)	3 (6)	27 (57)

4 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は85℃以上・1分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 29 年 1 月 4 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 一関市内の保育所

(1) 施設の概要

園児 66 名、職員数 19 名

(2) 有症者の状況等

ア 12 月 26 日（月）、当該施設から一関保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から一関保健所が調査を開始し、12 月 13 日から 12 月 28 日にかけて、園児 21 名、職員 1 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	園児						職員	計
	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	50 歳代	
男	1	2	2	1	3	2	0	11
女	3	0	1	4	1	1	1	11
計	4	2	3	5	4	3	1	22

(3) 原因究明の調査等

ア 県環境保健研究センターで実施した検査の結果、有症者 3 名からノロウイルスを検出。

イ 一関保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 一関保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

2 一関市内の保育所

(1) 施設の概要

園児 119 名、職員数 26 名

(2) 有症者の状況等

ア 12 月 26 日（月）、当該施設から一関保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から一関保健所が調査を開始し、12 月 16 日から 12 月 28 日にかけて、園児 24 名、職員 3 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	園児						職員		計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	20歳代	30歳代	
男	2	0	4	3	1	3(1)	0	0	13
女	2	1	0	3	5	0	2	1	14
計	4	1	4	6	6	3	2	1	27

() 内は、入院者再掲

(3) 原因究明の調査等

ア 県環境保健研究センターで実施した検査の結果、有症者4名から、医療機関が実施した検査の結果、有症者1名からノロウイルスを検出。

イ 一関保健所が実施した疫学調査から施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 一関保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

3 感染性胃腸炎の集団発生の状況

(盛岡市分を含む、()内は年度累計、単位：件)

区分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サボウイルス等)	合計
平成28年4月1日～ 平成29年1月4日	46	4	9	59
平成27年4月1日～ 平成28年1月4日	25 (46)	0 (0)	9 (10)	34 (56)
平成26年4月1日～ 平成27年1月4日	22 (48)	2 (3)	3 (6)	27 (57)

4 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- | |
|---|
| <p>① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。</p> <p>② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は85℃以上・1分間以上で十分に加熱する。</p> <p>③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。</p> <p>④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。</p> |
|---|

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 矢巾町内の保育所

(1) 施設の概要 園児 84 名、職員数 27 名

(2) 有症者の状況等

ア 12 月 28 日 (水)、当該施設から県央保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から県央保健所が調査を開始し、12 月 19 日から 12 月 29 日にかけて、園児 17 名、職員 6 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	園児						職員				計
	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	20 歳代	30 歳代	40 歳代	60 歳代	
男	3	2	1	2	0	0	0	0	0	0	8
女	0	2	3	1	2	1	2	2	1	1	15
計	3	4	4	3	2	1	2	2	1	1	23

(3) 原因究明の調査等

ア 県環境保健研究センターで実施した検査の結果、有症者 7 名からノロウイルスを検出。

イ 県央保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

2 感染性胃腸炎の集団発生の状況

(盛岡市分を含む、()内は年度累計、単位：件)

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合計
平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 1 月 5 日	47	4	9	60
平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 1 月 5 日	25 (46)	0 (0)	9 (10)	34 (56)
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 1 月 5 日	22 (48)	2 (3)	3 (6)	27 (57)

3 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 29 年 1 月 6 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 北上市内の老人保健施設

(1) 施設の概要 入所者 86 名、職員数 68 名

(2) 有症者の状況等

ア 1 月 4 日（水）、当該施設から中部保健所に、複数の入所者等が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から中部保健所が調査を開始し、12 月 25 日から 1 月 5 日にかけて、入所者 14 名、職員 2 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	入所者			職員	計
	70 歳代	80 歳代	90 歳代	20 歳代	
男	2	0	1	1	4
女	2	2	7	1	12
計	4	2	8	2	16

(3) 原因究明の調査等

ア 医療機関等が実施した検査の結果、有症者 2 名からノロウイルスを検出。

イ 中部保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 中部保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

2 感染性胃腸炎の集団発生の状況 (盛岡市分を含む、()内は年度累計、単位：件)

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	その他 (サポウイルス等)	合計
平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 1 月 6 日	48	4	9	61
平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 1 月 6 日	25 (46)	0 (0)	9 (10)	34 (56)
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 1 月 6 日	22 (48)	2 (3)	3 (6)	27 (57)

3 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 29 年 1 月 10 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 一関市内の保育所

(1) 施設の概要

園児 101 名、職員数 23 名

(2) 有症者の状況等

ア 12 月 28 日（水）、当該施設から一関保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から一関保健所が調査を開始し、12 月 19 日から 1 月 1 日にかけて、園児 24 名、職員 3 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 0 歳児に入院者 1 名あったが、現在は退院し回復傾向にある。

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	園児						職員		計
	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	20 歳代	30 歳代	
男	5	4	1	2	0	1	0	0	13
女	2(1)	3	0	3	2	1	2	1	14
計	7	7	1	5	2	2	2	1	27

※（ ）内は、入院者再掲

(3) 原因究明の調査等

ア 県環境保健研究センター等で実施した検査の結果、有症者 4 名からノロウイルスを検出。

イ 一関保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 一関保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

2 感染性胃腸炎の集団発生の状況 (盛岡市分を含む、()内は年度累計、単位:件)

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	その他 (サポウイルス 等)	合計
平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 1 月 10 日	49	4	9	62
平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 1 月 10 日	25 (46)	0 (0)	9 (10)	34 (56)
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 1 月 10 日	22 (48)	2 (3)	3 (6)	27 (57)

4 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- | |
|---|
| <p>① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。</p> <p>② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。</p> <p>③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。</p> <p>④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。</p> |
|---|

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 山田町内の保育所

(1) 施設の概要 園児 114 名、職員数 22 名

(2) 有症者の状況等

ア 1 月 13 日（金）、当該施設から宮古保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から宮古保健所が調査を開始し、12 月 29 日から 1 月 14 日にかけて、園児 27 名、職員 3 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	園児					職員		計
	0～1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	20 歳代	40 歳代	
男	6	1	3	2	3	0	0	15
女	3 (1)	0	3	3	3	2	1	15 (1)
計	9 (1)	1	6	5	6	2	1	30 (1)

※ () 内は、入院者再掲

(3) 原因究明の調査等

ア 県環境保健研究センターで実施した検査の結果、有症者 4 名からノロウイルスを検出。

イ 宮古保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 宮古保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

2 感染性胃腸炎の集団発生の状況

(盛岡市分を含む、()内は年度累計、単位：件)

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	その他 (サポウイルス等)	合計
平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 1 月 16 日	51	4	9	64
平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 1 月 16 日	28 (46)	0 (0)	9 (10)	37 (56)
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 1 月 16 日	24 (48)	2 (3)	3 (6)	29 (57)

3 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 宮古市内の医療機関

(1) 施設の概要

入院患者 309 名、職員数 288 名

(2) 有症者の状況等

ア 1 月 18 日（水）、当該施設から宮古保健所に、複数の入院患者及び職員が嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から宮古保健所が調査を開始し、1 月 13 日から 1 月 19 日にかけて、入院患者 6 名、職員 7 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	70 歳代	80 歳代	90 歳代	職員 20 歳代	職員 30 歳代	職員 50 歳代	職員 60 歳代	計
男	0	0	0	0	0	0	0	0
女	1	2	3	2	2	2	1	13
計	1	2	3	2	2	2	1	13

(3) 原因究明の調査等

ア 当該医療機関で実施した検査の結果、有症者 7 名からノロウイルスを検出。

イ 宮古保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 宮古保健所は、当該施設に対し手洗い・消毒等の二次感染対策について指導。

2 感染性胃腸炎の集団発生の状況

(盛岡市分を含む、()内は年度累計、単位：件)

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	その他 (サポウイルス等)	合計
平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 1 月 19 日	53	4	9	66
平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 1 月 19 日	30 (46)	0 (0)	9 (10)	39 (56)
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 1 月 19 日	26 (48)	2 (3)	3 (6)	31 (57)

3 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 二戸市内の保育所

(1) 施設の概要 園児 88 名、職員数 20 名

(2) 有症者の状況等

- ア 1 月 18 日 (水)、当該施設から二戸保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
 イ 同日から二戸保健所が調査を開始し、1 月 14 日から 1 月 22 日にかけて、園児 15 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
 ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	園児						計
	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	6 歳児	
男	0	0	2	2	1	3	8
女	0	0	1	0	3	3	7
計	0	0	3	2	4	6	15

(3) 原因究明の調査等

- ア 医療機関が実施した検査の結果、有症者 2 名からノロウイルスを検出。
 イ 二戸保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
 ウ 二戸保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

2 感染性胃腸炎の集団発生の状況 (盛岡市分を含む、()内は年度累計、単位：件)

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	その他 (サボウイルス等)	合計
平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 1 月 23 日	54	4	9	67
平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 1 月 23 日	31 (46)	0 (0)	9 (10)	40 (56)
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 1 月 23 日	28 (48)	2 (3)	3 (6)	33 (57)

3 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 雫石町内の保育所

(1) 施設の概要 園児 62 名、職員数 12 名

(2) 有症者の状況等

ア 1 月 23 日 (月)、当該施設から県央保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から県央保健所が調査を開始し、1 月 18 日から 1 月 22 日にかけて、園児 13 名、職員 2 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	園児						職員	計
	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	20 歳代	
男	0	0	0	2	1	3	1	7
女	0	0	0	1	1	5	1	8
計	0	0	0	3	2	8	2	15

(3) 原因究明の調査等

ア 県環境保健研究センターが実施した検査の結果、有症者 2 名からノロウイルスを検出。

イ 県央保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

2 感染性胃腸炎の集団発生の状況 (盛岡市分を含む、()内は年度累計、単位：件)

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	その他 (サボウイルス等)	合計
平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 1 月 25 日	56	4	9	69
平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 1 月 25 日	32 (46)	0 (0)	9 (10)	41 (56)
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 1 月 25 日	28 (48)	2 (3)	3 (6)	33 (57)

3 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 29 年 2 月 10 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 矢巾町内の保育所

(1) 施設の概要

園児 143 名、職員数 34 名

(2) 有症者の状況等

ア 2月8日(水)、当該施設から県央保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から県央保健所が調査を開始し、2月2日から2月9日にかけて、園児 12 名、職員 3 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	園児						職員			計
	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	20 歳代	40 歳代	50 歳代	
男	0	3	2	0	1	2	0	0	0	8
女	0	1	0	0	1	2	1	1	1	7
計	0	4	2	0	2	4	1	1	1	15

(3) 原因究明の調査等

ア 県環境保健研究センターで実施した検査の結果、有症者 5 名からノロウイルスを検出。

イ 県央保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

2 大船渡市内の保育所

(1) 施設の概要

園児 113 名、職員数 26 名

(2) 有症者の状況等

ア 2月8日(水)、当該施設から大船渡保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から大船渡保健所が調査を開始し、2月1日から2月10日にかけて、園児 22 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】 (単位：人)

区分	園児						計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
男	0	1	0	6	0	5	12
女	0	2	0	1	2	5	10
計	0	3	0	7	2	10	22

(3) 原因究明の調査等

- ア 県環境保健研究センターで実施した検査の結果、有症者9名からノロウイルスを検出。
- イ 大船渡保健所が実施した疫学調査から施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- ウ 大船渡保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

3 感染性胃腸炎の集団発生の状況 (盛岡市分を含む、()内は年度累計、単位：件)

区分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合計
平成28年4月1日～ 平成29年2月10日	61	4	9	74
平成27年4月1日～ 平成28年2月10日	38 (46)	0 (0)	9 (10)	47 (56)
平成26年4月1日～ 平成27年2月10日	40 (48)	2 (3)	4 (6)	46 (57)

4 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は85℃以上・1分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 花巻市内の幼稚園

- (1) 施設の概要 園児 109 名、職員数 15 名
 (2) 有症者の状況等

- ア 2月13日(月)、当該施設から中部保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
 イ 同日から中部保健所が調査を開始し、2月7日から2月15日にかけて、園児20名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
 ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	園児			計
	4歳児	5歳児	6歳児	
男	1	1	9	11
女	0	0	9 (1)	9 (1)
計	1	1	18	20

() 内は入院者再掲

(3) 原因究明の調査等

- ア 県環境保健研究センターが実施した検査の結果、有症者1名からノロウイルスを検出。
 イ 中部保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
 ウ 中部保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

2 感染性胃腸炎の集団発生の状況 (盛岡市分を含む、()内は年度累計、単位：件)

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	その他 (サポウイルス等)	合計
平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 2 月 17 日	63	4	9	76
平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 2 月 17 日	39 (46)	0 (0)	10 (10)	49 (56)
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 2 月 17 日	42 (48)	2 (3)	5 (6)	49 (57)

3 ウィルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は85℃以上・1分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 29 年 2 月 20 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 奥州市内の保育所

(1) 施設の概要

園児 70 名、職員数 30 名

(2) 有症者の状況等

ア 2月15日(水)、当該施設から奥州保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から奥州保健所が調査を開始し、2月14日から2月15日にかけて、園児16名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	園児				計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	
男	0	1	0	6	7
女	0	2	3	4	9
計	0	3	3	10	16

(3) 原因究明の調査等

ア 県環境保健研究センターで実施した検査の結果、有症者4名からノロウイルスを検出。

イ 奥州保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 奥州保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

2 宮古市内の保育所

(1) 施設の概要

園児 102 名、職員数 30 名

(2) 有症者の状況等

ア 2月16日(木)、当該施設から宮古保健所に、複数の園児が、嘔吐・腹痛の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から宮古保健所が調査を開始し、2月4日から2月17日にかけて、園児25名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	園児						計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
男	0	2	0	6	0	1	9
女	0	0	3	8	3	2	16
計	0	2	3	14	3	3	25

(3) 原因究明の調査等

ア 県環境保健研究センターで実施した検査の結果、有症者3名からノロウイルスを検出。

イ 宮古保健所が実施した疫学調査から施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 宮古保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

3 感染性胃腸炎の集団発生の状況 (盛岡市分を含む、()内は年度累計、単位：件)

区分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合計
平成28年4月1日～ 平成29年2月20日	65	4	9	78
平成27年4月1日～ 平成28年2月20日	41 (46)	0 (0)	10 (10)	51 (56)
平成26年4月1日～ 平成27年2月20日	43 (48)	2 (3)	5 (6)	50 (57)

4 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は85℃以上・1分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ロタウイルス及びノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 遠野市内の保育園

(1) 施設の概要 園児 87 名、職員数 24 名

(2) 有症者の状況等

ア 2月20日(月)、当該施設から中部保健所に、複数の園児及び職員が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から中部保健所が調査を開始し、2月13日から2月21日にかけて、園児30名、職員5名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	園児							職員			計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	20歳代	30歳代	50歳代	
男	0	1	0	1	1	3	2	0	0	0	8
女	1	1	5	4	3	6	2	2	2	1	27
計	1	2	5	5	4	9	4	2	2	1	35

()内は入院者再掲

(3) 原因究明の調査等

ア 県環境保健研究センターが実施した検査の結果、有症者3名からロタウイルス、1名からノロウイルスを検出。

イ 中部保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 中部保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

2 感染性胃腸炎の集団発生の状況

(盛岡市分を含む、()内は年度累計、単位：件)

区分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合計
平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 2 月 23 日	66	5	9	79
平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 2 月 23 日	42 (46)	0 (0)	10 (10)	52 (56)
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 2 月 23 日	44 (48)	2 (3)	5 (6)	51 (57)

3 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は85℃以上・1分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおり、ノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民への注意喚起のためお知らせします。

1 宮古市内の保育所

(1) 施設の概要 園児 50 名、職員数 9 名

(2) 有症者の状況等

ア 2月22日(水)、当該施設から宮古保健所に、複数の園児及び職員が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から宮古保健所が調査を開始し、2月8日から2月22日にかけて、園児23名、職員1名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、重症者はなし。

【有症者の性別・年齢別構成】

(単位：人)

区分	園児						職員	合計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	30代	
男	0	1	2	4	2	2	1	12
女	1	0	2	1	4	4	0	12
計	1	1	4	5	6	6	1	24

()内は入院者再掲

(3) 原因究明の調査等

ア 県環境保健研究センターが実施した検査の結果、有症者3名からノロウイルスを検出。

イ 宮古保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 宮古保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

2 感染性胃腸炎の集団発生の状況

(盛岡市分を含む、()内は年度累計、単位：件)

区分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合計
平成28年4月1日～ 平成29年2月24日	66*	4*	10*	80
平成27年4月1日～ 平成28年2月24日	43 (46)	0 (0)	10 (10)	53 (56)
平成26年4月1日～ 平成27年2月24日	44 (48)	2 (3)	5 (6)	51 (57)

※H28年2月23日にお知らせした数値から訂正しています

3 ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は85℃以上・1分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した用具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。